



2月号

《発行日》
令和4年2月16日《発行者》
露木 光人

«学校教育目標» 豊かな心をもち 自ら考え たくましく生きる子の育成
～学び合い 高め合う なかまづくり～

学びの様子をお届けします！ ～質の高い授業の創造～（4～6年生編）



学校では、様々な教育活動が展開されますが、その中で最も多くの時間を費やすのはもちろん「授業」です。

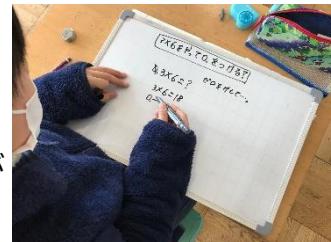
研究主任という役割の教員を中心に、質の高い授業を創り上げるために、子どもたちの主体性を生かしながら、日々研究し、自己研鑽しています。

今月と来月の2か月にわたって、各クラスの授業の様子を取材しましたので、ご紹介させていただきます。

4年生【2月7日（月）3校時 算数「小数のかけ算とわり算」】

かけ算(九九)は2年生時に、わり算は3年生時に学習しますが、その後は小数や分数の場面で応用することになります。今回の授業は、小数のかけ算の導入場面でした。

まずは、ある場面を想定した文章問題において、整数、次に小数で問題を提示しました。すると、筆算でチャレンジする子、数直線や図を用いて考える子など、自力解決を懸命に行っていました。「整数だったら分かるのに」「うーん、ちょっと分からぬ」という子が思いを伝えるなど、学ぶ姿勢や集中力が途切れません。ホワイトボードで、3名が考えを提示し、みんなで確認をし合う中で、わからないといった子も、「なるほど！」と声を上げました。その後、「困ったときは数直線」という合言葉があるようで、全体で数直線で再確認をしていました。4年生は、自分の考えをノートに表現することがよく鍛えられており、今後がますます楽しみです。



5年生【2月8日（火）2校時 社会「くらしと産業を変える情報通信技術」】

日頃よりタブレットを有効利用しており、今回は、社会科の学習で大切な資料活用能力を伸ばそうとすることが分かる授業でした。授業の中心は、バーコードの存在を確認後、POSシステムの活用をシミュレーションすることで、情報管理の重要性を学ぶということでした。中盤は、感染対策を意識してグループになり、根拠をもって物品の仕入れを考える時間でしたが、5年生は自分の意見を積極的にアウトプットしていました。その後の全体交流では、グループごとの意見を集約して、より考えを深めていました。

右の写真にあるように、5年生のノートにはインデックスが付いており、学びを整理し、振り返ることができるようになっています。ノートの活用の方法については、学校全体でさらに工夫していく必要がありますので、5年生のノートもヒントに、レベルアップをしていきたいと思います。



6年生【2月7日（月）5校時 道徳「自分の生活を見直そう」】

6年生の授業は、日頃から11人が友だちの意見を互いに尊重し、自分の考えを言いたくなるという雰囲気があり、みんなで創りあげていることがよく分かります。

話合い活動は、さすが最高学年というところを見せていましたが、6年生は、座り方や返事の仕方、授業の始まりと終わりのあいさつも他学年の見本となるものでした。

本時のねらいは、親に頼りすぎて失敗したことを生かし、「自己責任」を考え直すというものでした。中学校入学を間近にした6年生には、立ち止まるよい機会になったと感じましたが、「わかってはいるけれど…」という建前と本音のはざまで、真剣に考えている授業でした。

本校では、6年のみならず各学級の道徳の時間が、とても充実しています。感染症拡大が落ち着いたら、学校公開日等を利用し、ご覧いただきたいところです。



「子育てアラカルト⑧ ～心に扉があるとすると（前編）～」

過日、先輩の先生に2冊の本を紹介されました。実は、私はあまり本を読むことを得意としておらず、日頃、書籍を購入したり借りたりすることがあまりありません。しかしながら今回は、直接お話しした際に、「それは読んでみたい」と思い、すぐに書店に出向きました。そのうちの一冊「ケーキの切れない非行少年たち」（新潮新書）に書かれていたことをもとに、今号と次号にわたりお伝えいたします。

いわゆる非行少年は、更生保護施設において、時間をかけて、形だけの反省から本気の反省を見せるようになり、そこには、「変わろうと思ったきっかけがあった」ということが共通しているようです。学校教育にも大いにかかわりがあると感じました。きっかけとなったその10点とは、

①家族のありがたみ、苦しみを知ったとき ②被害者の視点に立てたとき ③将来の目標が決まったとき ④信用できる人に出会えたとき ⑤人と話す自信がついたとき ⑥勉強が分かったとき ⑦大切な役割を任されたとき ⑧物事に集中できるようになったとき ⑨最後まであきらめずにやろうと思ったとき ⑩集団生活の中で自分の姿に気が付いたとき と書かれていました。

以上のこと整理すると、「自己への気付き」と「自己評価の向上」が鍵となります。よって、周りの人や仲間の存在がどれだけ大きいか、改めて考えさせられます。

（つづく）

相和小写真館

門から児童昇降口に行く途中にある校歌が刻まれた石碑です。朝はたくさんの朝日を浴びて輝いて見えます。感染症拡大対策で声いっぱい歌う機会は少なくなり残念ですが、本校の校歌は優しさあふれる素敵な歌詞であることが教職員と児童の誇りです。 (令和4年1月12日撮影)



大根収穫、こんなにとれた！（3年生）

3年生が、総合的な学習の時間を使って、白菜や大根などを育てており、先日、最後の大根を収穫しました。野菜を育てるにあたっては、地域で活躍のボランティアの方からご指導を受け、本当に立派な野菜ができました。もちろん、畠の土もよいので、ありがたい限りです。

この大根は、学校全体におすそ分けされ、ご指導いただいた方にもお届けすることができました。



竹馬・一輪車検定～驚きの技術！～

小規模校である本校の特徴はいろいろとあります、その一つとして、竹馬・一輪車検定が挙げられます。一月に入り、子どもたちがグラウンドで練習している姿を多く見かけるようになりました。先日、竹馬に全く乗ることができなかつた1年生が、十歩、二十歩…と乗れるようになり、一週間後には、何と五十メートル乗れるようになりました。得意な子が、なかなかうまくいかない子に具体的にアドバイスする様子も見られこちらも心が温かくなりました。

さて、今年度は、全校一斉の検定は行わず、分散して学年ごとに実施しました。最終検定日には、一番難度が高い技への挑戦のため、さすがに苦戦していましたが、その表情は真剣な中にもうれしそうな笑顔もたくさん見られました。なわとび遊びもそうですが、やはり「継続は力なり」であることを実感しています。



～遊び王国がおもしろい！！（2年生）～

2月2日に、2年生が準備してきた「遊び王国」に招待されました。一人一人が作ったゲームを紹介し、招待した人をもてなしていました。特に感動したのが、その遊びの質の高さです。こういう遊びは、年が変わっても比較的同じようなものになりがちですが、独創性があり、いたるところに工夫が見られました。学校全体での交流に制限があり、少し残念でしたが、ここに紹介させていただきます。

